

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	指定放課後等デイサービス こどもデイサービス ひまわり		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 20日	～	R8年 2月 2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	R8年 1月 20日	～	R8年 2月 2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的療育については、専門知識・対応など、多角的に児童をアセスメントし、ライフステージに応じた対応を獲得できるように取り組んでいる。	相談や他事業所との情報交換・こども部会主催の研修には積極的に参加している。	運営会での独自の事例発表会・検討会までの企画は十分にはできていないが、それぞれ職員の興味のある研修や出張などに参加をし、福祉ネットワークは広がりつつある。
2	強度行動障がい児・それに値する児童の積極的受け入れを行い、家族のレスパイト等の支えになるように、家族との一体的な支援に取り組む。	特別支援学校の児童を中心に受け入れを行う。また、特に強度行動障がい児や対応が難しい児童を中心に支援展開に積極的に取り組む。家族が安心できる支えとなるような環境設定も必要。	今年度から裸坊祭りや餅つき行事を開催し、兄弟児を含む家族と交流を図る事ができた。(初回ということもあり、曜日限定とした)前年度に目指していた保護者との茶話会などの行事までは取り組みに至っていないが、このような行事と並行に保護者が集える場(支える)の提供を考えていきたい。
3	理学療法士・心理担当による専門的療育支援の実施。	専門的体制を整え、支援を実施している。 児童指導員・保育士・理学療法士・心理担当・社会福祉士・介護福祉士などの資格保有者(全職員)の各専門分野を活かしてチームを結成している。さらなる補完的チーム形成に取り組んでいく。	OJTには特に力を入れている。日々の利用児の行動の捉え方やその行動の背景(根拠)を意識的に考えられるように工夫した。また、虐待防止の学習など、基本となるようなことでも、振り返りながら意識を高めてくれたのではないかと。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別・集団や場面場面に適した環境をつくること。	前年度に比べると、人数が足りないとの意見が減少している。制度上の人数は十分に満たしている。 稼働率を考えると約90%(実質欠席ななければ100%前後となる見込み)であり、余地はあると考えている。上記内容を全職員が意識していくことが大切である。限られた環境・人員ではあるが、その中で何ができるのか、できないのかを精査し、チームワークの取れた環境の中で支援を円滑に行えていければよい。	新人職員に対してはOJTとして、1年間を通しての研修計画があるため、その計画を実施した。保護者の方との関わりや利用児の支援などを通して、成長できたと感じている。この取り組みが、左記の課題を少しずつ解決していく道のりであると捉えている。1年間で変化をしていくことは非常に難しく、チームを形成していくためには数年の時間を要することと認識しながら、質の良い支援・こどもたちの最善の利益に繋げていきたいと感じている。
2	チーム内での情報共有について	特に長期休みなどは朝からの利用があるため、会議での共有を図る事が難しいため、課題である。しかし、その中でも時間を取れることもあるため、数分でも有効活用を行ないながら振り返りや改善点の共有などを行っていきたい。	各棟リーダーと児童発達支援管理責任者を中心に、ある程度の大枠を決め、細かい部分をメンバーで話し合うことができれば、より有意義な共有・課題の発見ができるのではないかと感じている。ただしトップダウンという認識ではなく、あくまでも基礎の部分の固めていくという認識である。
3	安全計画について	安全計画・BCPを作成し、それに基づいて行動するように指示を出している。	避難について、ライフジャケット(人数分)や避難バック、施設内に点在していた物品を整理し、避難ツールとなり得るものを専用棚(事務所)に集め、不測の事態にさらに備えていく。